

令和8年度第2回 品川区総合教育会議 次第

令和8年7月14日(火)午後4時00分～
品川区役所第二庁舎6階261・262会議室

司会進行：区長室長

1. 開 会

2. 挨 拶 区 長 教育長

3. 講 演

【テーマ】A I時代に育むべき力とは
～これからの義務教育に期待すること～

【講 師】一般社団法人 Learn by Creation
代表理事 竹村 詠美 氏

4. 質疑応答

5. 挨 拶 区 長

6. 閉 会

品川区総合教育会議

AI時代に育むべき力とは

～これからの義務教育に期待すること～

一般社団法人 Learn by Creation 竹村 詠美

2026年7月14日



目次

- 01 AIとこれまでのテクノロジーとの違い
- 02 幼少期・思春期に育みたい力とAIの影響
- 03 AI活用のベストプラクティスー6つの役割と学校事例
- 04 教育AI投資において気をつけるべきポイント

SECTION 01

AIとこれまでのテクノロジーとの違い

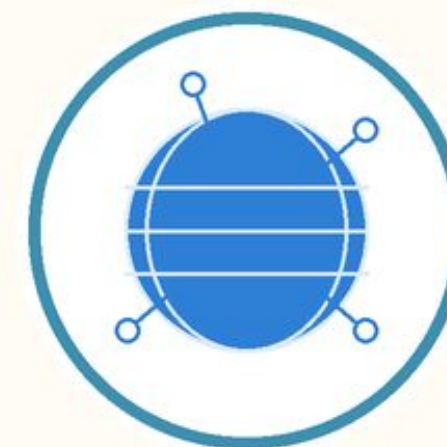
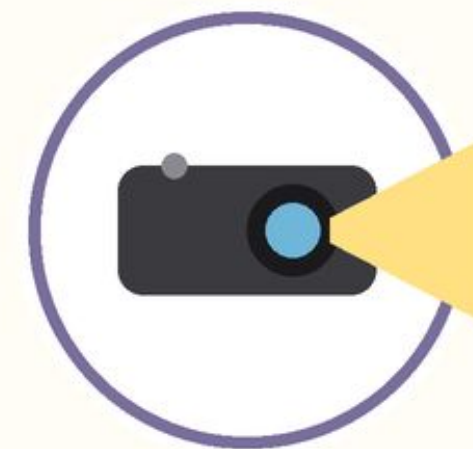


テクノロジーの進化は 常に教育に 変化をもたらしてきた

計算機、インターネット、電子黒板、タブレット。新しい技術が登場するたび「教育にどう取り入れるか」が議論されてきました。

従来の技術は、データ処理・分析の高速化や情報流通のグローバル化など、「作業を助ける道具」として教室に溶け込んでいきました。

AIも同じ延長線上にあるのか、それとも全く違う変化なのか——ここから考えていきます。



なぜAIは今までと 全く違うレベルの影響力なのか

1

従来の技術は「低次元の思考」
が得意領域

データ処理・分析、情報の保管・加工、
マッチング。予想範囲の仕事をこなす機
能特化型の助っ人で、仕事の代替は段階
的・部分的でした。

2

生成AIは「高次元の思考」を幅広
く担い始めている

アイデア出し、コーチング、コピーライ
ティング、映像制作——人にしかできない
と思われてきた複雑・創造的な仕事にま
で及びます。

3

桁違いの普及と進化のスピード
による社会の急速な変化

「大学 → ホワイトカラー」という従来の
キャリアパスに、数年単位で大きな危機
が訪れています。

AIによる新卒就職危機

- 新卒ホワイトカラーの就職市場がAIで自動化されやすい分野を中心に代替されつつあり、多くの若者が就職に不安を感じています
- 対照的に、経験に裏打ちされた判断力・人脈・信頼関係を持つベテラン人材の就職は良好——「経験や判断力」の価値がむしろ際立っています
- AIの企業や社会実装が始まったいま、教育界全体でAIとの付き合い方が問われています

AIに置き換えられづらい仕事や資質とは

AIが代替しやすい領域：パターン化されたルーチンワーク

定型的な情報処理——コールセンター、データ入力、定期調査

汎用的な知識に基づく分析・予測——

パターン化できる作業——新米プログラマー、

人が強みを発揮する領域：社会性やヒューマンタッチが鍵

AIによる仕事の質と量の向上——投資家、臨床心理士、微生物学者

ヒトとしての価値——医療、介護、保育、教育、カウンセラー、コーチ

非定型的リーダーシップ——起業家、政治家、校長

卓越したスキルと人間性——三つ星シェフ、エンターテイナー、スポーツ選手

The asymmetric impact of generative AI

Researchers observed a drop in job postings for occupations highly exposed to automation following the launch of ChatGPT. At the same time, they noted a rise in employer demand for jobs likely to be augmented by AI.

Average effect (number of job postings)



Source: "Displacement or Complementarity? The Labor Market Impact of Generative AI," HBS Working Paper, August 2025. Harvard Business School Working Knowledge

生成AIによる非対称的インパクト 代替 (Replace) か 補完 (Augment) か

生産性ファーストから人ファーストの時代へ

- AI ロボットは、センサーのデータを取り込むことはできても、過去の経験・文化背景・DNAに基づく独自の脳があるわけではなく、無人格な情報から生まれる情報や作品
- 「誰=Who」を重視 => 無機質な大量生産品より、個や企業・団体のブランドや物語の価値アップ
- 凸凹も含めた「その人」ならではの感覚・判断・意見が重宝される・評価される時代に
- クリエイティブリーダー = 完璧な人ではない 自分の考えやセンスを大切にする一方、多様性を認め、他者と協働しながら、地球人として価値創造にとりくむ



金継ぎ——凸凹や傷こそが、その器だけの価値になる Photo
by [Riho Kitagawa](#) on [Unsplash](#)

SECTION 02

学童・思春期の学びにおける AI の脅威と可能性



K-8教育におけるAI——脅威と可能性

● 可能性 ● 脅威 ● 課題

興味関心に合った学び

プライバシー侵略

格差の拡大

教員負荷削減

足場がけ

社会包摂

思考習慣の欠乏

誤情報の蔓延

学習成果の考え方の再考

モチベーション向上

リアルタイムフィードバック

対人関係の希薄化

AIリテラシー

自己効力感減少

1 認知能力+ 非認知能力の健やかな育成

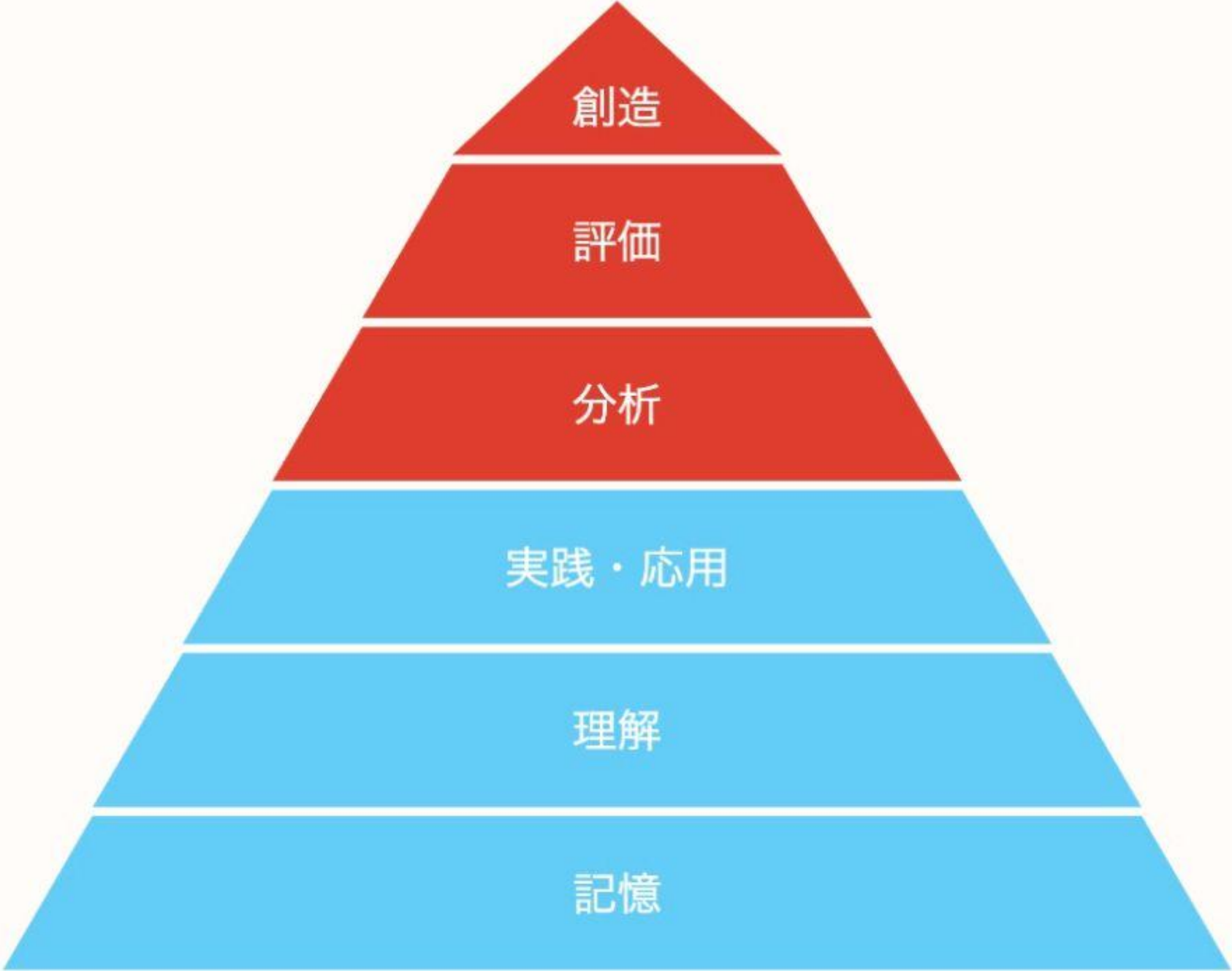
AI = こたえをくれる ではなく AI = 学びのサポーターとしてどう活用できるか？

鍵は「すぐ忘れない学び」と「高次元思考力の育成」——短期記憶偏重ではなく、感情が揺さぶられ、長期的な記憶に残る学びの活動にどうつなげるか？——問いをたてる力をどう育んでいくか？

知識・スキル習得の位置付けだけでなく、AI が当たり前の世界における「学び方を学ぶ」ことが、リスクを低減し、効果を最大化するポイントです

認知学力の6分類

高次
思考
力
HOTS



低次
思考
力
LOTS

ブルームの分類学：6段階の認知領域

- 知識を組み合わせ、新たなアイデア、作品、解決策を構築
- 基準やエビデンスを元に情報やアイデアの価値判断を行い、論理的に説明
- 情報を分解し、パターンや矛盾、論理的根拠を調べる
- 知識、ルール、コンセプトやアイデアを新たな問題で活用
- 学んだ知識やスキルを理解・要約・説明する
- 基本的な事実・公式・単語・文法などを覚えている

2 メンタルヘルス・社会性と情動の学びの重要性

子ども達に立ち向かう、様々な危機

- デバイスの利用時間過多による集中力の低下や、対人関係構築経験の欠乏
- 偽情報の横行による、信頼へのゆらぎ
- AI が思考を代替することによる、虚無感や不安感の増大

今まで以上に、子ども達が安心・安全な環境で、帰属意識を育み、自己肯定感や効力感を育んでいくことが求められます

3 ハードファン——手応えのある楽しさ

成長マインドセットと元に、設定した目標のために頑張り続けられる「粘り」は、良質な経験＝ハードファンから育ちます

実体験に基づき、長期的な記憶に残る学習活動の重要性が、AI時代にはいっそう強まります

挑戦・失敗・振り返る・再度挑戦というループを回し続けられる子どもは、AIに出された答えを無目的にコピペするのではなく、AIをつかって自らの目的を達成しようとします

SECTION 02 のまとめ

実体験にもとづく学び × 社会性と情動の学び x ハードファンを育む文化

テクノロジーはあくまでツール AI を健全な発達と成長に
どう活用していくかという視点

SECTION 03

AI活用のベストプラクティス ——6つの役割と事例紹介

① 個別チュータリング

② 即時フィードバック

③ 探究の足場かけ

④ 創造的な学び

⑤ アクセシビリティ

⑥ AIリテラシー



ROLE 01 — PERSONALIZED TUTORING

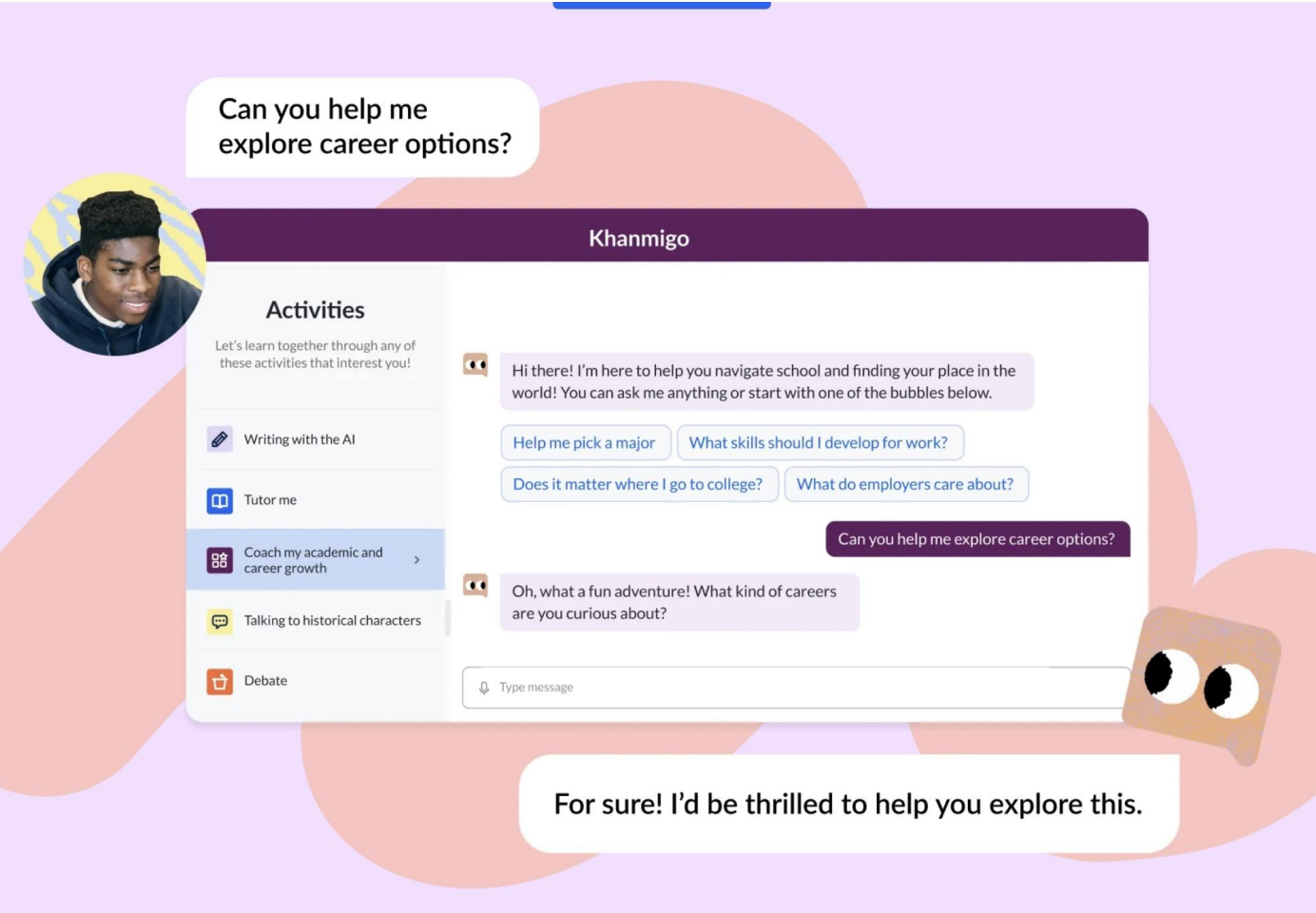
個別チュータリングとアダプティブ・ラーニング

Newark公立学区 ニュージャージー州
• Khanmigo

算数の復習ツールとしての導入。66校・約29,000人に拡大。3年間の調査で州の数学テストに有意な向上。

McDonogh校 メリーランド州・Flint

小1から高校生まで、段階的な導入。
小学生：AIからの問いかけにグループごとに答えたり、クラスの最後にフィードバックを提出し、授業改善に繋げる。高校生：先生が個別の学習状況を把握し、生徒の状況に即した宿題につなげる。



利用率を上げる工夫、問いかけ方の指導、「学びの支援ツール」としての理解がなければ学びの促進剤にならない

ROLE 02 — FORMATIVE FEEDBACK

即時の形成的フィードバック

Dublin City Schoolsオハイオ州・MagicSchool

AI 利用ガイドラインを整備。90%以上の教員が採用したツールによる作文の添削利用。小4の児童がAIの添削と対話を重ね、自分の「声」を守りながら推敲——生徒が深い関与で学んでいるとの評価。

The York Schoolトロント・Flint

導入3ヶ月で3,800件超のAI対話を可視化。「すぐ返ってくるフィードバック」が、これまでの作文指導では不可能だった速さの推敲サイクルと改善意欲を生んだ。成績にすぐ反映されないということが生徒に理解されていたため、積極的な反復利用が進んだ。

AI フィードバックが一律優れているわけではない。また、先生と生徒の関係性の強化のためにAIがあるので、先生は目をかけてくれなくなったと思われないことは大切。基準準拠・改善の方向性の明確さ・正確性・本質的特徴の優先・支援的トーンの5つの点では、基準準拠（例：ループリック評価）で最も優れているという調査結果も

ROLE 03 — SCAFFOLDER OF INQUIRY

探究と問題解決の「足場かけ」

McDonogh校メリーランド州・Flint

あえて情報を与えすぎない「シナリオ型チューター」。米比戦争を防ぐ外交官役になり、前夜の読書内容を思い出し応用しながら解決策を探る——1つのプロンプトで40人が40通りのシミュレーション。

高校数学におけるAIツール研究スタンフォード大学

スタンフォード大学の研究では、高校数学において、答えではなく適切なヒントを出す設計になっていない場合、練習問題では好成績を出したAI利用の高校生の本番テスト成績が、AIを使わないグループと比べ17%下がったことを報告。Bastani, et al. (PNAS, 2025)

探究の授業デザインで、AIは先生の手強い味方となり得る。一方で、AI利用ポリシーや、ヒントを出すという形で生徒が粘って学ぶ設計、AIが誤答をしないためのガードレールを設けることが重要。認知のをオフロードすることの危険性については周知が必要。

ROLE 04 — CREATIVE ENGAGEMENT

創造的・マルチモーダルな学びの触媒

Zionsville学区インディアナ州・MagicSchool

小6が第二次大戦の歴史人物にAIで「インタビュー」。AIのドイツ人パイロットキャラクターがドイツ語で回答し、歴史的文脈と視点をめぐる議論に発展。小4は『George vs. George』のジョージ・ワシントンとキング・ジョージのキャラクターと対話し、独立戦争を両者の視点から理解。

AI画像生成ニューヨーク州・Franklin Square

先生が生成AIを活用し、生徒が作成した動物の形の家が、実際にどのように見えるかをシミュレーションし、生徒の作品により深い意味づけを行う。また、多言語対応をすることで、英語が不自由な生徒の授業への関心にもつなげる。

AI が創造性や共感を育む足場がけとなる可能性はある一方で、生徒が学びを発展させていくモチベーションにつなげるかが授業設計上大切

ROLE 05 — ACCESSIBILITY & INCLUSION

アクセシビリティとインクルージョン

Aurora公立学区コロラド州・MagicSchool

38,000人超の多様な学区。英語に限られた新規移民の児童8人、IEP（個別支援計画）の児童、読み書きが学年水準に届かない児童が混在する教室で、教員が教材を個別最適化し、時間配分のジレンマを解消。またテキストのレベル調整、問題作成、ループリック生成などで教員の負荷を減らす。

Riverview Middle Schoolカリフォルニア州・

州の学習標準やアセスメントデータを学習させたカスタムチャットボットを構築し、個別ワークシート作成からIEP(個別教育プラン)目標の草案まで活用。生徒と関わる時間をより確保し、学習成果につなげる。「最終ステップとして必ず人間の目で全て確認する」運用を徹底。完全にAIに任せないことがポイント。

同じツールでも子どもによって「解放」にも「依存」にもなり得ることを理解しての運用が大切。あくまでHuman-in-the-Loopの上での運用がベストプラクティス。教員の人材削減の理由としてAIを位置付けないことが大切。

ROLE 06 — AI LITERACY

AIリテラシーと批判的思考の教材として

SchoolAI 2年間の教室研究

ユタ州のJordan School 学区にて、2023-25年に13,882件の生徒とAIの会話を分析。教員が6つ以上の学習空間を設計すると、生徒がAIに問い返し・吟味・反論する行動が有意に増加。授業設計によっては、批判的思考や高次思考の向上になり得る。

発達段階に応じた設計

小学校段階は「AIの得意・不得意、間違えること、人間との違いの理解」の基礎理解。ハンズオン中心に、あくまで教員が介入した形での限定的利用が推奨されている。中学校段階は教育用の安全性が担保されたツールの利用が推奨される。AI利用のリスクを理解した上で、情報の信憑性や、引用元の確認など批判的思考を元にした利用が重要。問いの立て方についても学ぶことで、単なる依存を避ける。AI コンパニオンへの依存ヘナ中尉が必要。

使うだけでなく、やりとりをする中で考たり、情報の信憑性について考えられる子どもに。AI の権威的な意見を子ども達が鵜呑みにしないためには、批判的な思考を鍛えることは最重要課題の1つ。AI を解答提供ツールとして依存利用している子ども達がいる現状も理解した上での運用方針の策定が求められる

SECTION 04

教育AI投資において 気をつけるべきポイント



最優先は、この2つ

HUMAN-IN-THE-LOOP

判断の輪の中に、必ず人を置く

評価・支援・見守りの最終判断はAIに任せきりにせず、教員と大人が握り続ける体制を先に設計する。

TEACHER TRAINING

教員研修から始める

成功事例の共通項は「教員が先」。Dublin学区は教員先行の展開で採用率90%超を実現してから、子どもたちに広げた。

教育AI投資のチェックポイント

- ✓ 目的が先、ツールは後——何を育てたいかを明確にしてから選ぶ
- ✓ Human-in-the-loop——最終判断は必ず人が握る体制にする
- ✓ 教員研修とセットで導入する——「教員が先」が成功の共通項
- ✓ 個人情報・データの取り扱い方針を明確にする
- ✓ 家庭の環境差による格差を生まない配慮をする
- ✓ 定期的に効果を見直し、使い方を更新し続ける

まとめ：AI時代に育むべき力

- AIは子どもたちの敵でも味方でもなく、使い方次第で価値が変わる存在です
- AIを無視することはできない今、育みたいのは、実体験に根ざしAIに置き換えられない力——「実体験にもとづく学び × 社会性と情動の学び x ハードファンを育む文化」です
- AIは強力なツールですが、それぞれのメリットを享受する際には、学区・学校単位でのAI導入タスクフォースを設定し、教員研修を含め段階的な導入をすることが大切です
- 人を判断の輪の中心に置き、教員への投資から始めることが成功の鍵です

ご清聴ありがとうございました

